

令和4年度 特別の教育課程の実施状況等について

東京都		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
東京大学教育学部附属 中等教育学校	国立大学法人東京大学	国立

1. 学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学 校 名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
東京大学教育学部 附属中等教育学校	<a href="https://www.hs.p.u-tokyo.ac.jp/schoollife/curriculum/2">https://www.hs.p.u-tokyo.ac.jp/schoollife/curriculum/2</a>

※必要に応じて行を追加すること。

2. 学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
東京大学教 育学部 附属中等教 育学校	<a href="https://www.hs.p.u-tokyo.ac.jp/schoollife/curriculum/2">https://www.hs.p.u-tokyo.ac.jp/schoollife/curriculum/2</a>	<a href="https://www.hs.p.u-tokyo.ac.jp/schoollife/curriculum/2">https://www.hs.p.u-tokyo.ac.jp/schoollife/curriculum/2</a>

※必要に応じて行を追加すること。

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- 計画通り実施できている  
 一部、計画通り実施できていない  
 ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

※(1)で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- ⊙実施している
- ・実施していない

<特記事項>

### 3. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

本校の教育目標である「未来にひらく自己の確立」ならびに「探究的・協働的な学びを通じた豊かな市民性の育成」の実現にむけ、研究開発期に「総合的な学習の時間（現在の総合的な探究の時間）」を再編して展開していた探究的市民科がある。この探究的市民科と各教科の学習を接続する教科として、「情報・技術科」と「生活デザイン科」を構想し、教科特有の学習のほかに産業社会や家庭生活に横たわる現代的課題について、生徒の関心を直接つなげる役割をもつ。そのために、4年生に学校設定科目を置いて、1年生から5年生までの5年間にわたり、「情報・技術科」を全員が学べるように両科目を配置している。

さらに、2022年度からはこの4年生での学校設定科目において、生活デザイン科の学習内容を取り入れることにした。このことによって、情報・技術科だけではなく生活デザイン科についても5年間の継続的な学習が可能となった。

以上のように、教科としての系統的なカリキュラムを持ちながら、より社会的課題に対して探究的にアプローチしていく学びを実現するものとして位置付き、成果をあげている。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

本校の特例のように、技術科と家庭科を独立させ、かつ6年一貫したカリキュラムをもつ学校は極めて少ない。しかし公立の中高一貫校が増えている中で、そのカリキュラムの系統性と、生徒の関心に寄り添った探究性を両立させながら学びを深めていくことが切実に求められている。本校の教育課程は、6年間の発達段階を考慮に入れながら系統性を重視しているので、中等教育学校においては比較的受け入れられやすいと考えられる。その一方で、併設型や連携型の一貫教育においてどのように展開できるか、その汎用性の研究が課題であろう。

### 4. 課題の改善のための取組の方向性

本校の公開研究会や本校も幹事を務める「中高一貫教育研究会」などを通して、多様な学校種の先生方との情報共有や実践交流を深めながら課題に迫りたい。